豆まきじいさんとためぬき

あるどころに、おじいさんとおばあさん二人暮して、おじいさんが、
「おばあさん、きょう豆蒔で来るがらな」
って山の畑に豆蒔きに行ったなよな。そしたけ、
「ひとつぶ千粒、ひとつぶ千粒」
ってじさま蒔き上げれば、何処から来たやら狸が来て、
「ひとつぶ、ひとつぶ、ままなってけじゃがれ」
なんと、ど思って、んでもじいさんが、構わねで当てにしないで、
「ひとつぶ千粒、ひとつぶ千粒」
って蒔けば、
「ひとつぶ、ひとつぶ、ままなってけじゃがれ」
って、なんぼぼってやっても（追い払っても）、木の根っこさ腰かげで言うもんだし。余り腹わるくて、なんぼしても蒔がえねしど思って、家さ来てばあさんどさ、
「ばば、何と山さ行ったって、豆蒔がえね。狸来て邪魔にして、とっても蒔がえねくて、腹わるくて来たじゃ。何としぇばええでろ」
したばおばあさんが、
「ん、ままで、じじ、おれ飴作ってやるがら、狸腰掛げた木さぬだぐっておげ。しぇばあしたそごさ来て飴つけば飴から動げねぐなったば、狸どごギリギリどからげで、家さしょって来えばえねが。狸汁食うにえねが」
ってそう言ってしゃべたんだどや。
次の日、ばばこしえだ飴、じじしょって、木の根っこさ狸こねうぢ、デラッと塗ってまた、
「ひとつぶ千粒、ひとつぶ千粒」
って蒔でだって。したばまだ来て、
「ひとつぶ、ひとつぶ、ままなってけじゃがれ。ひとつぶ、ひとつぶままなってけじゃがれ」
じじが言えば言う程そうして言うし、
「ドス狸、この野郎」
って縁、のしあげで行ったば、もうピッタリ毛みんな飴さふっつで動げねくって、動げねどご縄でキリキリどからげで、家さしょって来たって。家さ連れて来て、庭（土間）の大きた大黒柱さつねで（つないで）次の日、またじじ豆蒔きに行って、ばばは米どごデカラ、デカラ、よいしょ、よいしょって搗でだば、
「ばば、なんとゆるぐねな。大雑儀だな。おれ一回替ってけろが」
って狸言うんだど。
「なんのなんの、なってもこえぐね。なってもね」
またひとつやれば、
「おれ替ってけろが、ちっとおれどご緩めでけねがじゃ」
「駄目、駄目、じじにがってごしゃがえるがら駄目だ」
「ちっとこ、ちっとこでええ、ちっとこ緩めでけれじゃ」
とても何言っても聞がねくて、ちょこっとしたば、ズーと解げでしまって、狸下さ降りでしまって、ばば狸にかがって殺さえでしまって、その狸ばばが着てだ物着て、手拭を被ってばばに化げで米搗であったって
そしたばじじ帰って来たば、
「あゝ、来たが来たが」
どて狸化げでばばになって、晩げになってそして、
「狸汁も出来だし、飯食うにえで」
「んだが、んだが、したら食が」
って狸がばばに化げでんな、向かって見だば今迄ばば右まなぐ、めっこ(片目)だな、左のまなぐ引っ込んで、きょうのばばおがしな、変だなどは、じさま自身そう思ってであったどよ。こんだ狸汁食ったば、

「きょうの狸汁しねぇな、しねぇな　（固くて萎びてる）」
って言ったば、そさ（そこへ）鳥ご来て、
「狸汁食うどて、ばば汁食ってだ。ドラガオラ」
ってカラス来てねだって（鳴いたって）、
「はて何だろ」
って言ったばまた、
「狸汁食うどて、ばば汁食ってだ。ガオラ、ガオラ」
ってカラス鳴ぐもんだはて、よっくに見だば、右まなぐ左まなぐになってるし、よっく見だば、おっぱ（しっぽ）めるし、
「狸、んが、ばば殺したんだ」
どて、こんだ狸どご殺すど思ったば、狸、山さ逃げで行ってしまったし、じっこ困ってしまって、呆えで泣でだば兎来てせ、
「じっこ、じっこ、なして泣ぐ」
「こうして狸にかってばばどご殺さえでしまったもの、よぐよぐ呆えてしまった」
じっこ泣でだば、
「ん、待で待で、狸め、おれ仇とってけるはで、じっこ泣ぐな泣ぐな」
って兎言ったって。そして兎が、
「狸居だが」
「はい休め」
「きょう天気良え、山さ枯枝採に行がねがじゃ、狸」
したば、
「行ってもえなやな」
って山さ鉈たがて（持って）ふたりながら枯枝採りに行ったって。
枯枝採って、しょって、こんだ、
「採ったおの、昼間になったはで帰ろで」
「帰ろ、帰ろ」
「狸、んが先にありげ（歩け）、枯枝しょって」
「なして、えねが」
「えでば、んが先になってあべ」
狸先になって、兎後ろなって来たば、狸のしょっている柴さ火つけるどてマッチで、チョキン、チョキンて言えば、
「兎、あのチョキン、チョキンは何の音や」
「あ、、あれがァ、あれカチカチ山や」
「んだが」
その内、火燃えつで、ボーボーボーどて火の勢いなれば、
「兎、あのボーボーボーって言うの、あれ何の音だ」
「ボーボー山だ」
「んだが」
その内、火強ぐなって、ボンボンボンボンと燃えで来て、
「アッ、アッ、アッ」
えごげばえごぐ程熱ぐなって、狸の背中あがめろ（赤くただれて）なって、なんぼが熱やら家さ飛び込んで行ったし、兎、
「えがった、ざまみれ」
って思って家さ来たって。
次の日なって、また兎が、
「えだがじゃ狸、何としたけな」
「んがにがって、背中あがめろになって、よくよく大変だじゃ」
「んだら、おれええ薬おしぇらな。おえど一緒にあべ。海さ行って塩水つければ、すかっと治るはで海さあべ」
「んだってが」
って行ったば、こんだ兎の舟は木の舟で、狸の舟は土でこしぇだ土舟さぬしぇで（乗せて）、ふたりながら、櫓かいで海さ行ったって。
よっぽど行ったば行ったば、
「兎、おれの舟さ水はって（入って）来たじゃ」
ドブドブて沈んでったば、

「あゝ、えっきびした（いい気味だ）。んが、ばばどご殺した罪だで。えっきびした。えっきびした。んがも死ね」
って、兎そしてばばの仇とって、じっこどごさ、
「今殺して来た」
って来たんだどや。
そえでじっこどごさ恩おくったどて、恩おくったというのは、じっこどご助けだどて、トッピンカラリになったなやな。